

# ケアマネジャーの医薬品情報に関する実態調査

○下村文恵\*1、瀬戸聡子\*1、藤原裕明\*1、工藤香代子\*1、大塚邦子\*1、津田隆\*1、門脇正周 \*2、田中留奈\*3、中山由香\*2

\*1(一社)くすりの適正使用協議会 くすりのしおりコンコーダンス委員会

\*2株式会社インターネットインフィニティーWEBソリューション部

\*3佐賀大学大学院先進健康科学研究科

【目的】 地域包括ケアシステム推進に際し、ケアマネジャーの果たす役割は重要であり、医薬品に関する情報が必要になる場面もあると考えられる。そこで、一般社団法人くすりの適正使用協議会(以下、協議会)と株式会社インターネットインフィニティー(以下、IIF社)は共同で医薬品情報アクセス状況と課題を探るアンケート調査を実施した。

【方法】 IIF社が運営する「ケアマネジメント・オンライン」に登録する会員ケアマネジャー(居宅介護支援事業所または地域包括支援センター勤務)を対象としたWEBアンケート調査を行った。調査期間は2024年8月3日～13日である。

【結果】 本調査では547名の回答を得た。個別の医薬品情報を調べる頻度(SA※1)について尋ねたところ、月に1回以上48.1%、1週間に1回以上30.9%の順に多く、調べることはないとの回答は4.9%と少なかった(図1)。どのような時に調べるか(MA ※1)については、ケアプラン作成時59.6%、利用者または家族からの質問時59.4%との回答が多く、次いで医療職(医師・薬剤師・看護師)とのコミュニケーションの為47.7%、介護スタッフからの質問時22.9%であった。その他15.5%の中には、入退院や処方変更時など利用者に変化があった時、アセスメント作成時などが含まれた。調べる手段(MA)については、88.5%が都度インターネットの検索エンジンで調べると回答した。医療職に照会する頻度は高くなかった(薬剤師;29.6%、看護師;27.1%、医師;9.3%)(図2)。

日常業務で必要とする医薬品情報(MA)は薬の作用や効果93.2%、薬の副作用86.3%等が多かった(図3)。自身で医薬品情報を調べる時に感じること(MA)は、専門的な表現が多く理解が難しい37.8%、記載されている情報量が多く読む気になれない27.6%、どの情報が正しいのか分からない26.9%が多かった。一方、特に問題ないとの回答は34.6%であった(図4)。

日常業務で医薬品情報について気になること・困り事に対する自由回答の質問では、副作用への懸念、飲み忘れ等の服薬管理の問題、効能効果・作用機序等の薬剤情報の理解のしにくさ、専門用語の多さ、ジェネリック医薬品では同名の薬剤が多く検索が困難等の意見があった。

協議会が公開している患者向け医薬品情報「くすりのしおり」(以下、しおり)※2を知っている方は19.2%であった(SA)。実際のしおりを見た印象(MA)は、情報量が適切61.2%、薬の作用と効果が簡潔に記載されている55.2%、薬の外観(写真)が記載されている54.1%、平易な表現で記載されている49.0%等であった(図5)。しおりを介護スタッフにも教えてあげたいか(SA)との質問には73.3%が「そう思う」「とてもそう思う」と肯定的な回答であった。

しおりに対する意見・感想についての自由回答の質問では、今後活用したいとのコメントや印刷・ダウンロードできる便利さ、製剤写真があることを評価する声、情報が簡潔でわかりやすい等、肯定的な回答が多く寄せられた。一方、文字の大きさや色使い、文字数の多さ、視覚的なインパクトがない等の意見もあった(表)。

※1 SA:単一回答、MA:複数回答

※2 「くすりのしおり」は製薬企業約180社が、医療用医薬品の添付文書の内容に基づき作成しています。一般の方にも理解しやすいように簡潔かつ平易な言葉でまとめた、信頼性のある医薬品情報提供書です。必要に応じて更新され、常に最新の情報として提供されています。

【くすりのしおり検索サイト】  
<https://www.rad-ar.or.jp/siori/>



図1 日常業務で個別の医薬品情報を調べる頻度 (n=547)

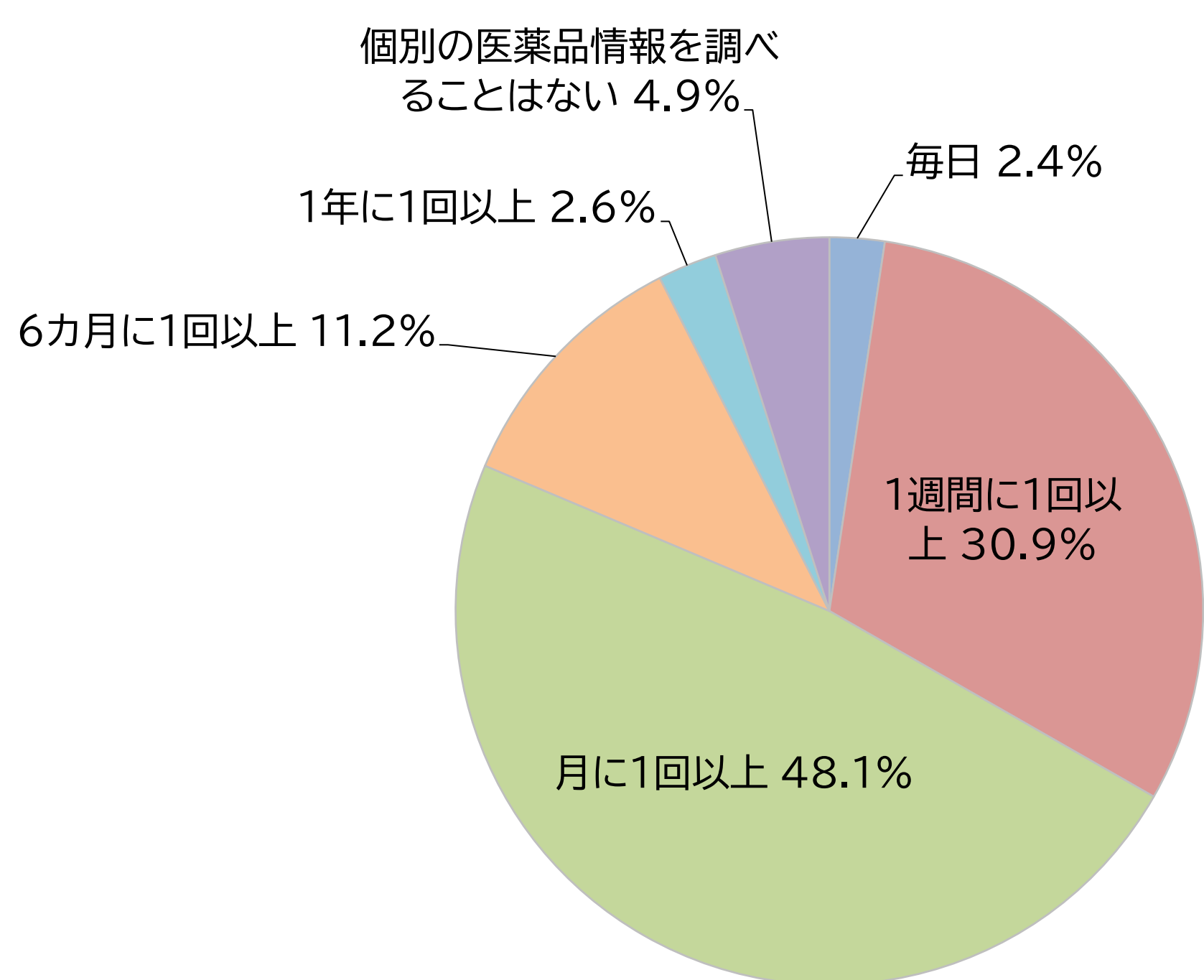


図2 日常業務で個別の医薬品情報を調べる手段 (n=547)

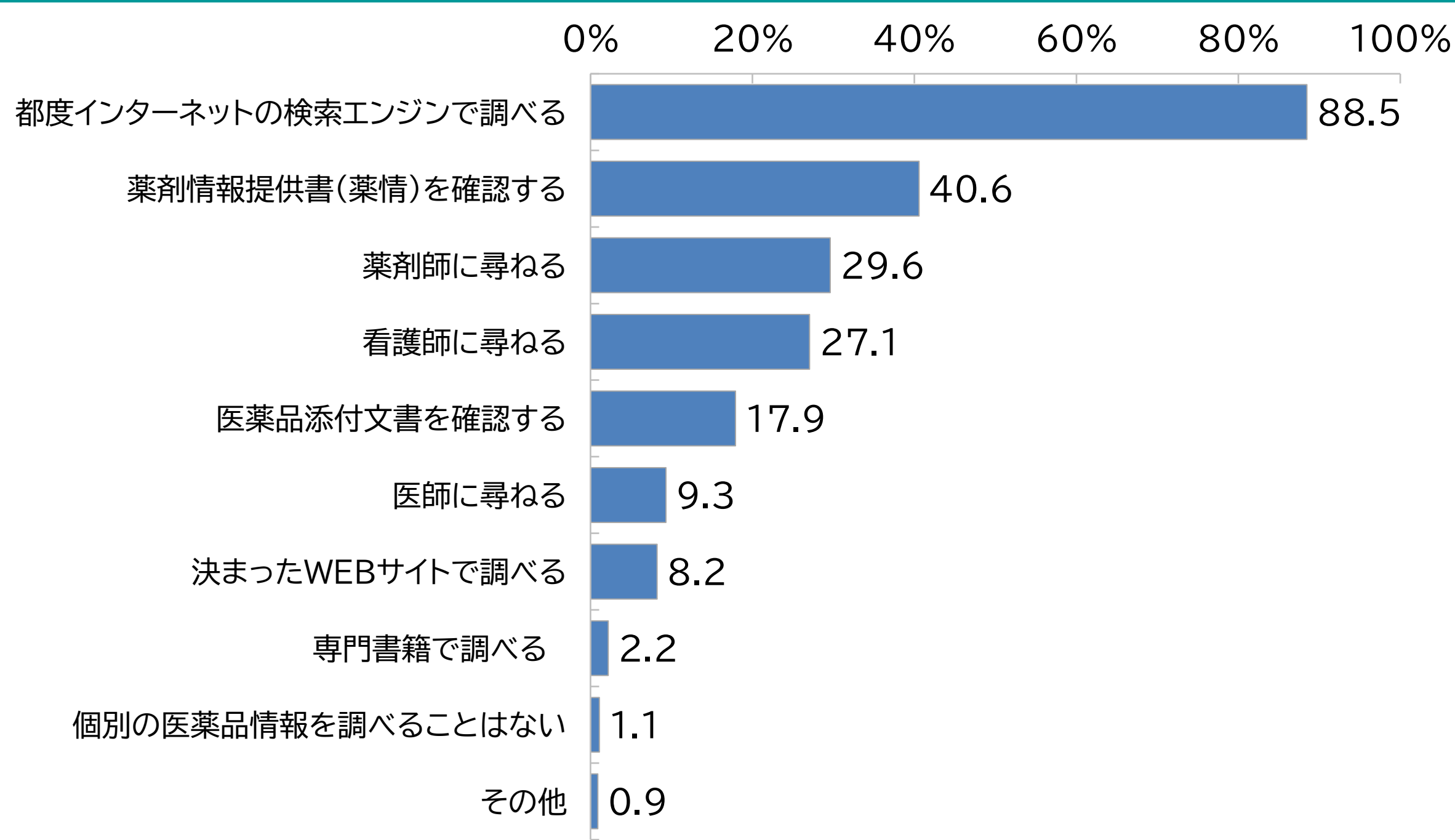


図3 日常業務で必要とする医薬品情報 (n=547)

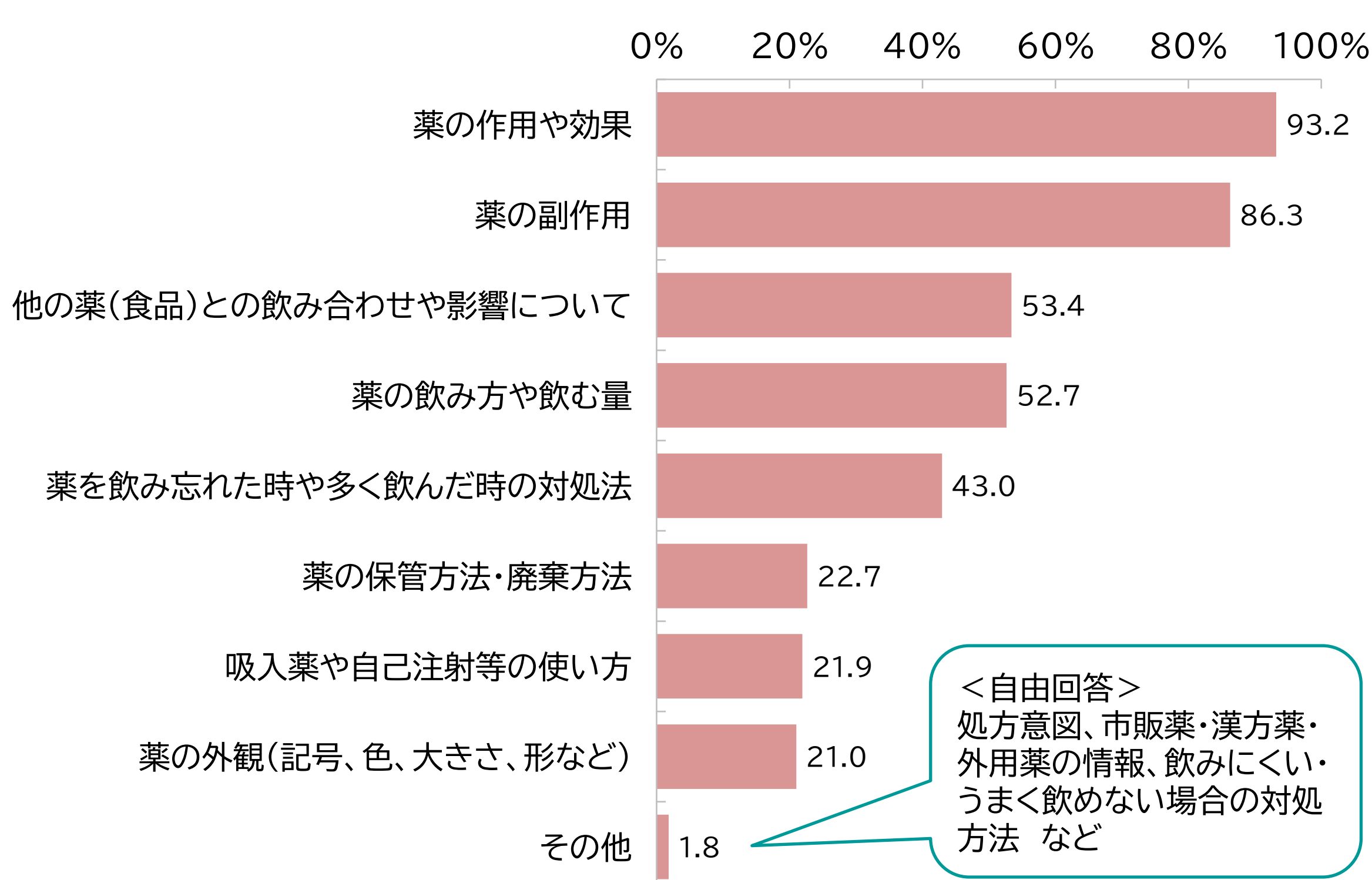


図4 医薬品情報を調べる時に感じること (n=547)

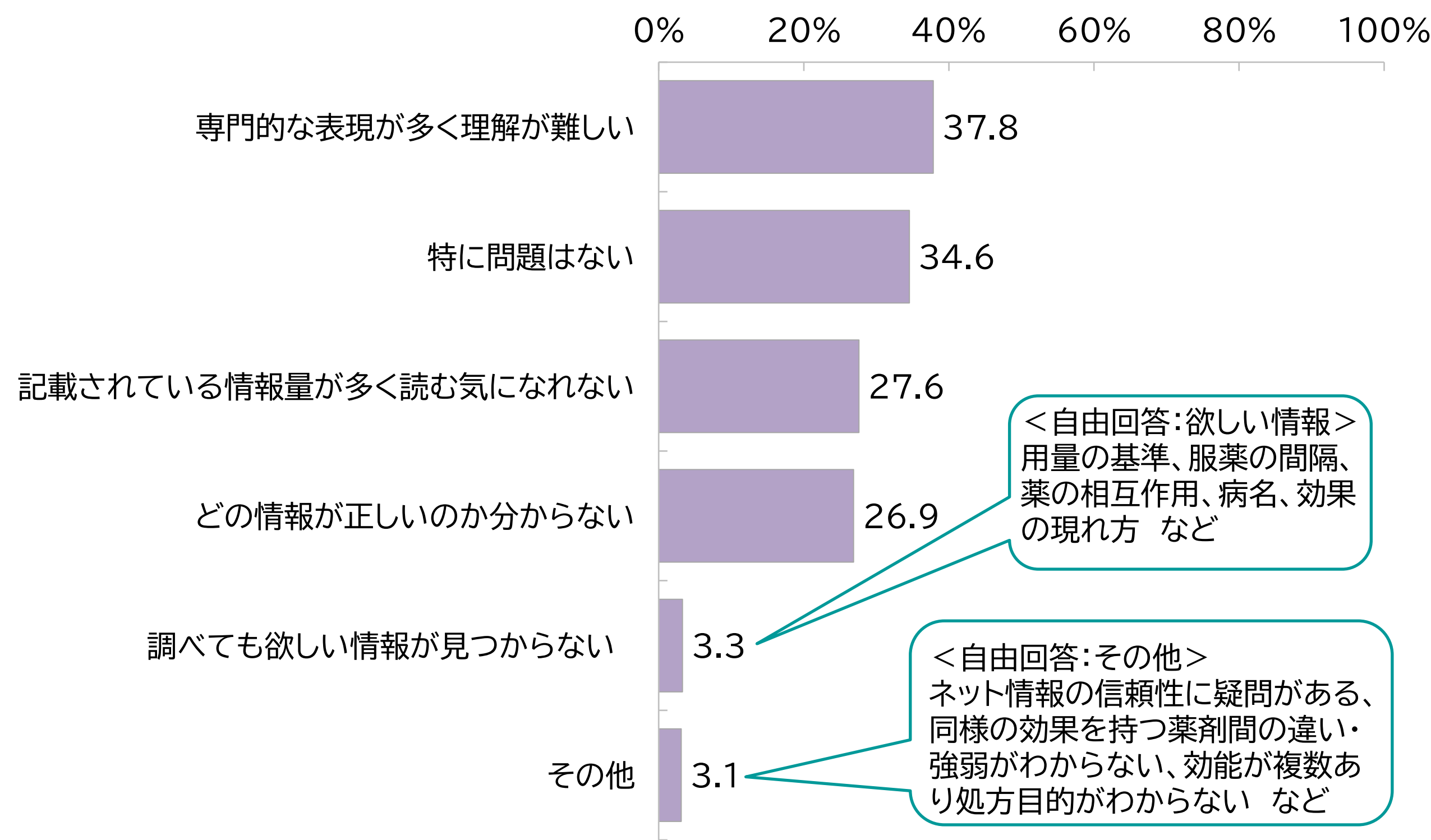


図5 実際のしおりを見た印象 (n=547)

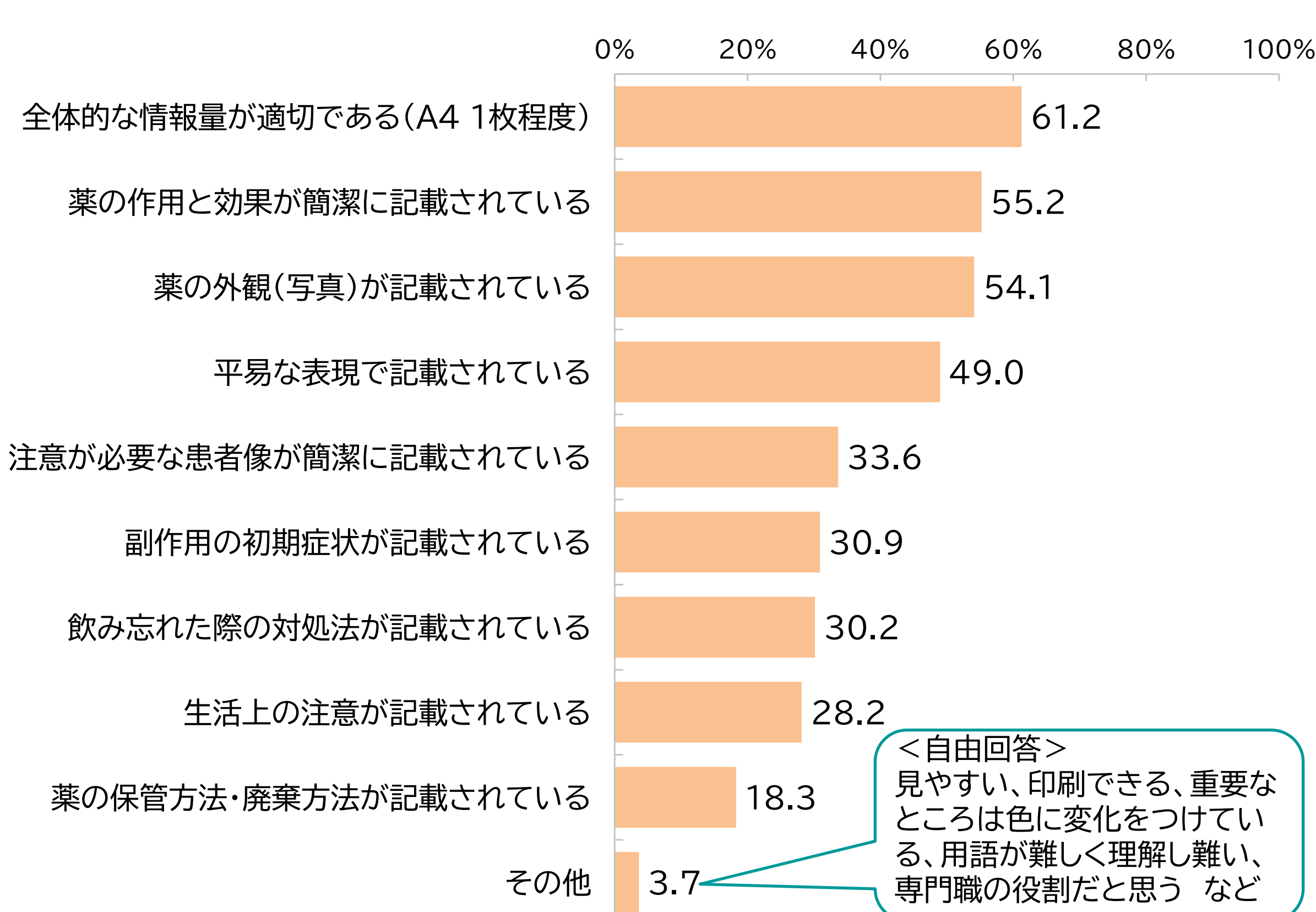


表 くすりのしおりに対する意見・感想

カテゴリ	主な意見・感想
利便性 使いやすさ	見やすい・わかりやすい・文字の形や大きさは読みやすい・欲しい情報が簡潔にまとめられている・薬について情報収集をする際に活用したい・一カ所で調べることができるのは良い・こんな分かりやすい薬情報があるとは知らなかった・誰でも調べやすく、利用者自身も読んでわかりやすい・利用者と家族が「知る」ための必要な情報は詰まっている
情報の質や内容	効能が平易な文章で読みやすい・薬の剤形がカラーで載っていて誰が見てもわかりやすい
普及・周知	もっと家族や居宅支援事業所向けに周知して欲しい・もっと広報してもよいと思う・もっと周知して幅広く利用してもらえたらよい
その他	外国の方や高齢者にもわかりやすい日本語で書かれているのもっと良い・注釈等で用語の説明があると良い・ページ構成を見やすくしてほしい・アプリになると使い勝手がさらに良さそうだと思う・カメラ認識で検索できるとありがたい・見やすさの工夫が必要(文字が小さい)・文字数が少ない方が良い・スマホ版は字が読みづらい・飲むタイミングを図柄で表現することは可能(朝昼夕など)、患者向けであるならばそういう工夫も良い。

一部読みやすさのために改変しています。

【考察】 本調査により、8割以上のケアマネジャーが月1回以上医薬品情報にアクセスしており、ケアプラン作成時、利用者・家族の質問対応時及び医療職とのコミュニケーションの為に自ら医薬品情報を調べているが、約7割が適切な情報選択に困難を感じていることが分かった。医薬品情報で不明点があれば医療職との連携が求められるが、約9割がインターネットで検索して調べており、連携が難しい場面もあることが伺えた。ケアマネジャーが必要と回答した医薬品情報はしおりに掲載されており、情報量、理解度なども肯定的な回答が多かった。また、しおりには製剤写真や錠剤の刻印・コードが掲載されており、一包化された薬剤や落薬時の確認に役立つことが考えられる。1シートで印刷できるため会議で共有しやすいなどの意見もあり、ケアマネジャーの日常業務において、しおりは有用な資材と考えられた。今後も認知度を高める活動を行っていきたいと考える。

COI開示 筆頭発表者名: 下村 文恵 演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等はありません